



「第一期生のこれからの活躍に期待する」



平成29年4月3日、一期生の皆さんが大学院生活の多くの時間を過ごした「教職大学院院生室」で、初めてお話をさせていただいたことを、つい最近のことのように感じております。その内容は、「新たな弘前大学教職大学院文化の創生」であり、そのための心構えとして重要なポイントが、「心のリセット」と「院生・教職員によるチームとしての文化の創造」でした。青森県教育委員会との入念な協議により構築された教育課程のもと、第一期生18名と専任教員16名との混成チームが誕生した瞬間でした。

以来、皆さんは、「自律的発展力」「課題探究力」「省察力」「協働力」の4つの力の向上を目的とし、演習を中心とした大学内での授業はもちろん、学校教育現場での実習や教育行政機関での実地演習等、多種多様な経験、いや挑戦の連続だったと推察します。その中でミドルリーダー養成コースの皆さんは、大学院生というある意味中立的な立場に身を置き、自分の勤める学校というもの、さらには教師という職業を一步引いて、俯瞰的に見る良い機会だったのではと思います。一方、教育実践開発コースの皆さんにとっては、学部学生時代の授業や教育実習とは異なり、学生という立ち位置を抜け出し、教師という視点での学校教育とそれを支える様々な仕組みの中に身を置けた経験が、これから始まる教師としてのライフステージの大きな糧になるものと確信しています。

さて、修了間近になった今の心境はいかがでしょう。もしかして、一生懸命やったけど、その結果、「課題に対応する糸口はつかんだ、でも確固とした解決策はまだ……」さらには、「自分がわかっていない」ということが「わかった」だけで答えが出ていない「どうしよう？」というところかもしれません。しかし、それは無限の可能性を手に入れたということです。これからの教師生活の中で自分と向き合いながら成長していく力、まさに「自律的発展力」が培われたとも言えるでしょう。

弘前大学教職大学院の黎明期をリードした第一期生は、本学の歴史に輝かしい第一歩を標し、新しい教職大学院の文化の礎を築いたことは確かです。しかし、皆さんの真価が問われるのは、この後の教育現場での皆さんの「生き方」です。その「生き方」がまわりの人に伝わり、やがては弘前大学教職大学院の文化の創造につながります。ご活躍を期待しております。

研究科長 戸塚 学

院生による年次報告会、最終報告会の開催

2月15日(金)に1年次院生による「年次報告会」、2年次院生による「最終報告会」が青森県総合学校教育センターにおいて開催されます。1年次院生にとっては今年度の取組内容、そして2年次院生にとっては2年間の学びを発表することになります。



院生は今、自分の研究の最後の追い込みに精一杯努力しています。この努力はきつと実を結ぶはずですが、院生の頑張りを皆様もご覧いただけませんか。事前申込みを受付中ですが、ご都合がはっきりせず申し込みができない場合は、当日直接会場に来ていただいても結構です。皆様のご参加をお待ちしております。

- | | | |
|-----|---|-----------------------|
| 日 時 | 平成31年2月15日(金) | 10:00~16:45 (受付9:30~) |
| 場 所 | 青森県総合学校教育センター (青森市大矢沢字野田80-2 電話 017-764-1997) | |
| 次 第 | (1) M1 院生年次報告会 | (10:00~11:45) |
| | (2) 「ミドルリーダー養成研修プログラム開発事業」研究報告 | (12:40~13:35) |
| | (3) M2 院生最終報告会 | (13:45~16:20) |
| | (4) 全体会 | (16:30~16:45) |

一年次院生からのメッセージ 年次報告会に向けて



M1 教育実践開発コース
中野 悠
研究テーマ
歴史的思考力を深めるための
日本史学習
～自己効力感の向上を通して～

年次報告会では、生徒の自己効力感を向上させながら歴史的思考力を深めていくことについて報告したいと思います。当初は歴史的思考力を深める手立てが明確ではなく、手探り状態の中で実践を行ってきました。また、生徒の実態や課題を把握し、これまでの先行研究を参考にしながら研究に取り組んできました。生徒が主体的に学ぶ環境を整えることを優先に実践を行った結果、研究に対しての自分なりの答えが見えてきたように思います。とはいえ、まだまだ改善の余地が多分にあるので、次年度も引き続き生徒の実態把握や教材研究に取り組んでいきたいと思っています。



M1 教育実践開発コース
浦田 夏輝
研究テーマ
生徒の主体性を育てる中学校
数学科の授業づくり
～予想活動を通して～

私は「生徒の主体性を育てる中学校数学科の授業づくりー予想活動を通してー」というテーマで研究を進めています。内容としては、問題の結果を予想させる活動を通して、生徒が主体的に課題に取り組むようになるのかを検証したことを書いています。報告書作成にあたり、自身の考えをまとめることやそれを文章にすることに時間がかかりましたが、今後の方向性や取組が明確になりました。これからもこのテーマに沿って研究を進めていきたいと思っています。



M1 教育実践開発コース
横田 強
研究テーマ
中学校数学科における授業
の主体的な学び
～生徒の活動の反映と話し
合いの工夫～

私は数学教育における主体性の育成について研究しています。数学における主体性を生徒が自ら考えることと捉え、授業の中で生徒の活動を反映させていくことによって主体性が高まっていくと考えています。実習校での授業実践では生徒の様々な反応や姿を見ることができたり、自身の発問の工夫の重要性を感じたり、多くの経験と成果や課題がありました。

た。この学びを活かせるよう、来年度に向けた課題を指導教員の先生からの御助言をいただきながら、研究の発展に向けて頑張っていきたいと思っています。



M1 教育実践開発コース
山田 なつみ
研究テーマ
人間関係形成能力を育む
教科関連の学び
～認める活動を通して～

現在、「人間関係形成能力を育む教科関連の学びー認める活動を通してー」という主題で研究しています。これまでは、認める活動を通して、それぞれの教科で高められる児童の人間関係形成の能力や教科の共通性を見だしてきました。人間関係形成能力は幅広く、見えにくいいため、その捉え方について一番悩みました。また、見取り方も難しく、これからも考えていきたいと思っています。そして来年度の研究授業実践に向けて、単元構成を考えたりアンケートを作成したりして、研究を進めていきたいと思っています。



M1 教育実践開発コース
久保田 通
研究テーマ
小学校国語科における
「深い学び」の実現

今年度、私は実習校で、小学校国語科における「深い学び」の実現を目指して二つの単元を指導しました。「深い学びとは何か」という疑問から始まり、二つの授業実践を経て、「何のために深い学びを実現するのか」という研究の目的を見出すまでの過程を時間の流れに沿って報告します。研究を進めるにあたって多くの苦悩や困難がありました。ゼミの先生の熱いご指導や実習校の先生方からの温かい励ましのおかげで、なんとか年次報告会で発表することができそうです。報告会当日は、自らの研究発表に責任と使命感をもって臨みたいと思っています。



M1ミドルリーダー養成コース
下村 亘
研究テーマ
子どもの学びを見取る
校内研修の在り方
～コンピテンシー・ベースの
授業づくりを目指して～

今まで学級担任の目線しかなかった自分にとって、学校組織、学校の存在、教育とは…などの新しい視点はとても新鮮でした。同時に、それを整理し、解釈することに苦勞したことも事実です。しかし、教育課題に向き合い、視野が広がったことで、教員としての成長を実感しています。来年度に向け、

校内研修という切り口から子どもの資質・能力の育成について、同僚の先生方とともに追究していくことを考えています。これまでの実践と教職大学院で学んだことをもとに、「理論と実践の往還」を進めていけるよう、今後も努力していきたいと思えます。



M1ミドルリーダー養成コース
稲葉友輝
研究テーマ

不登校児童に対する組織的支援の在り方に関する研究

目の前の子どもたちと向き合い、自分が信じるものをあれこれ駆使しながら教育に携わってきました。成功も失敗も「実践経験」として積み重ね、今の教師としての「自分」をつくってきました。が、まだまだ道の途中です。これからどうするか。自分は何をしたいのか。シンプルな問いですがここが肝になる部分です。自らの答えを出すために学んでいます。勤務校の不登校課題をどう見るか。課題に対して学びをどう生かすか。どのような取組ができるか。考えること、準備すべきものはたくさんあります。『自分の思いを行動に』理論と実践の往還で、活路を見だしていきます。



M1ミドルリーダー養成コース
成田幸子
研究テーマ

小学校における“つながり”を生かした学級集団づくり

これまでの自身の教育実践と教職大学院での学びを往還させ、年次報告会で発表する内容を紙面に表現する作業は容易ではありません。ですが、困難さを乗り越えていく過程にこそ、教師として学び続ける意義や成長があるように、今、強く思います。

それは、子どもたちも同じなのかも知れません。学級集団の一員として、学級内の問題や困難さに向き合うこと、友達や先生と一緒に乗り越えようと試行錯誤することは、学級集団の成長という大きな喜びをもたらすと考えています。しかしながら、学級担任としての学級集団づくりにおいて、そのような喜びを全ての子どもに味わわせてきたか疑問も感じます。そのような、学級集団づくりに関しての課題意識を発端に、今の時代に求められる学級集団づくりの一つとして、学校内外の“つながり”に着目した実践研究をしたいと思えます。



M1ミドルリーダー養成コース
神大輔
研究テーマ

併設型小中学校において連携を充実させるためのPDCAサイクルの確立

～児童生徒の実態把握とその活用を通して～

中学校併設型小学校である所属校において小中連携推進への取組が始まったことを受け、自身の研究を、その充実を図ることに焦点を当てて進めてきました。

これまで、所属校だけでなく連携先の中学校からも取材や調査の協力を得られたことで、連携推進の過程における成果と課題を把握することができました。

今後は、展開されていく連携への取組を、継続的・発展的に充実させていくためには、どのようにして評価・改善を図っていくべきか、PDCAサイクルの確立について研究を深めていきたいと考えています。



M1ミドルリーダー養成コース
工藤由紀
研究テーマ

**学校忌避感情の改善を目指した取組に関する研究
～レジリエンスの向上に着目して～**

仕事がかたくいかなかったり、プライベートで嫌なことがあったり……。私たち大人は日々ストレスに直面しながら、それでもなんとか乗り切って生活しています。それはきっと子どもたちも一緒のはずです。

「上手にストレスを乗り越え、それを成長に変えて、楽しい学校生活を送ってほしい」、そして「生涯にわたってたくましく生きていってほしい」という思いから、このテーマに行き着きました。不登校児童生徒は、県内でも年々増加しており、喫緊の課題です。春からの勤務校での実践に向けて、不登校の未然防止に役立てられればという思いで研究に取り組んでいる毎日です。



M1ミドルリーダー養成コース
成田綾子
研究テーマ

担任と養護教諭のニーズの共有化につながる情報共有の在り方について

～保健室からの情報発信と特別支援委員会での情報発信から～

教職大学院での学びを振り返り、講義や実習、院生や教員との関わりの中で、省察の苦しさを知り、協働の喜びを知りました。また、無知な自分をいやというほど感じ、教員として成長したいという気持ちが強くなった一年でした。

一年前と比べて、自分が成長したのか今は良く分かりません。おそらく勤務校に戻った時に、教職大学院で学んだことと実践とが結び付き、変化していくのだろうと期待しています。今後は、研究テーマである「教諭と養護教諭の情報共有の在り方」につ

いて研究を深め、先生方のニーズに沿った情報提供ができるような取組をしようと思っています。



M1ミドルリーダー養成コース
下山達彦
研究テーマ
高等学校における教科横断型授業改善について
～他教科3人の週一回連携から始める構想と省察～

ずっと考えていること

各教科における知識・技能を習得する過程において、私たち教員が子どもたちに身に付けてほしいと普段から願っている資質・能力（個人的には「固定概念にとらわれず、新しい発想やアイデアを生み出せる力」を育み「自分の人生を自分で変えられる人」になってほしいと考えている。）を、他の教科と連携して育てることができないだろうか。このことについて日々考えている。例えば、「自分の考えを他者へ伝える力が少し足りないと思うのだけれど」といった職員室での誰かの呟きに、「私が担当する教科でも同じように感じるんだよね」と呼応し、「じゃあ次の単元で連携して育ててみましょうか」といったことが発生する。そんなイメージである。このような行動が、教員にとって「やりがいのある業務」となり、日常的に至る所で発生する環境を整えるために何が必要なのか、この後も引き続き考えたい。



M1ミドルリーダー養成コース
三上豊広
研究テーマ
インクルーシブ教育システムの構築について
～交流及び共同学習（居住地校交流）の在り方に関する考察～

後期は、研究テーマ「インクルーシブ教育システムの構築について—交流及び共同学習（居住地校交流）の在り方に関する考察—」に向けて、実施している特別支援学校と保護者、交流先の小・中学校（居住地校）に対してアンケート調査を行ったり、居住地校交流の実際の様子を見学させていただいたりしたことで、新たな発見がありました。

インクルーシブ教育は、「多様性を尊重し、認め合う社会」を目指すことから、障害がある子とない子が共に学ぶという受け止めだけではなく、多国籍の子やジェンダー格差等も含めた多様な捉えができる教員を目指す必要があると思います。今後も知見を深め、よりよい居住地校交流を探究していきたいと思っています。

二年次院生からのメッセージ 最終報告会に向けて



M2教育実践開発コース
斗澤晴加
研究テーマ
生徒が主体的に学習する中学校社会科の研究
～効果的なグループワークとは～

最終報告会では、「生徒が主体的に学習する中学校社会科の研究—効果的なグループワークとは—」というテーマで発表します。特に今回の発表では、集中実習での授業実践を分析し、レポート活動の効果や、グループワークで生徒の考えにどのような変化が見られたかについてまとめていきたいと思います。また、授業実践から生徒が主体的に取り組むための手立てについて先行研究を参考にしながらまとめたものを発表します。2年間の学びを振り返り、来年度から活かしていけるような発表にできるよう準備していきたいと思っています。



M2教育実践開発コース
神尾龍太郎
研究テーマ
生徒が主体的に学ぶ中学校国語科
～教材研究に注目して～

「生徒を主体的に学ばせるためには、学習活動に対して必然性を感じさせなければならぬ」と考え、『教材性』『構造化』を検討した『単元を通して課題解決をめざす言語活動』の授業実践と省察を重ねてきました。

それぞれの実践の際に、私がどのようなことを考え、どのようなことを実践してきたのか、当時の思考の流れが伝わるような最終報告にしたいと考えています。最後に、2年間の実習及び、授業実践の準備にあたり、実習校の先生方に大変お世話になりました。この場を借りて心より感謝申し上げます。



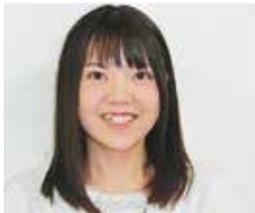
M2教育実践開発コース
竹谷涼
研究テーマ
中学校社会科における学習意欲向上のための指導
～社会経済的要因から学習意欲の格差が生じている時代背景を踏まえて～

私は、「中学校社会科における学習意欲向上のための指導—社会経済的要因から学習意欲の格差が生じている時代背景を踏まえて—」というテーマで実践研究を行ってきました。

本研究では、授業に消極的な生徒の学習意欲を高めるために、生徒が学習内容をより身近に感じ、自

分に関わることを捉えられるように工夫しました。授業の省察やビデオ分析を行う中で、それぞれの生徒が学習意欲が高まっていることが分かり、その成果を報告書にまとめています。

今後は、教員という立場で子どもと向き合うことになるため、この研究の成果と課題、教職大学院での学びなどを活かしながら、現場で活躍していきたいと思います。



M2 教育実践開発コース

阿蘇 優香

研究テーマ

生徒の自己肯定感・自尊感情を高める手立て

～ほめることと認めることの実践を通して～

2年間を通し生徒との信頼関係づくりをテーマに研究を進めてきました。その中でも、フィールド実習で感じたことやこれまで学んできたことから、信頼関係づくりの過程にある、「生徒の自己肯定感・自尊感情の育成」に着目しました。

取組として、英語の授業や道徳の授業を活用し、「他者」と「自己」の2つのアプローチから働きかける題材や活動を考え、実践しました。ワークシート等による主観的な視点だけでなく、外部のアンケートも活用し、客観的な視点も踏まえ、生徒の自己肯定感・自尊感情にどのような変化をもたらしたかについて考察しました。



M2 教育実践開発コース

木村 文香

研究テーマ

児童が主体的にコミュニケーションを図ろうとする小学校外国語科の授業づくり

「児童が主体的にコミュニケーションを図ろうとする小学校外国語科の授業づくり」について研究しています。児童が「やってみたい」という思いや、目的意識をもって取り組める授業を目指して実践してきました。

2年間を通して、実習校の先生方には多くの授業実践や、行事に参加する機会を頂いてきました。学びを生かし、深める機会が実習校であったからこそ、充実した2年間を過ごすことができたと実感しています。先生方への感謝の気持ちを忘れず、最終報告に臨みたいと思います。



M2 教育実践開発コース

田中 宏輝

研究テーマ

**健康に関わる知識・技能を実生活で生かす力の育成
～自分との関係性を高める活動を通して～**

教職大学院での学びが終わろうとしています。これまで、幅広い内容の講義を通して理論を学び、実習校において生の教育活動に触れることができました。関わってくださった先生方や多くの生徒から学ぶことの大切さを実感させていただきました。ただただ感謝のみです。



また、院生室では他教科・他校種の院生同士で議論することができ、教育的視野が広がりました。他では経験できない貴重な二年間でした。最終報告会では、これまでの学習成果を発表します。ありがとうございました。



M2 教育実践開発コース

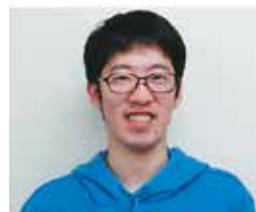
三上 悟

研究テーマ

学習意欲を高める世界史の授業開発

～地球史・地域史の視点を生かした教科書の活用を通して～

研究を進めるうちに、このテーマが、一人一人異なる生徒の「心」を取り扱っていることに気付きました。だから、「～をすれば学習意欲が高まる」と言い切ることができず、どのように結論を書いていけばよいのか迷っていました。迷いを突破するきっかけになったのは、実習先の高校で担当の鈴木先生からいただいた、「一つのことだけじゃなく、なんでもやる」という言葉でした。今後もつぶさに生徒を見取り、心に寄り添い、働きかけながら、自分のやり方ばかりに固執せず、いろいろなやり方を学んでいければと思います。



M2 教育実践開発コース

新山 裕大

研究テーマ

**授業における深い学びの追究
～数学の授業実践を通して～**

私の研究は、授業の中でどう深い学びに至るかを追究するものです。深い学びそのものはまだ新しいものの、アクティブ・ラーニングから数えていくと、長く考えられてきたものになります。しかし、高校において実践されて先行研究自体は、私の調べた限りでは、いまだ少ないのが現状です。教職大学院では、それを探究していくために、毎日学びに向かっていました。最終報告では、

授業実践を踏まえた成果を話していきたいと考えています。そして、この教職大学院で得た知識と経験を糧とし、しっかりと教職の現場へと還元できるように今後も日々学びを怠らぬようにしていきたいと思っております。



M2教育実践開発コース
佐藤 洋 晟
研究テーマ
高校数学における主体的な学びを促す授業づくり
～ペア学習、机間支援を通して～

私のこれまでの経験から、進学に重点を置いている学校では問題演習が中心となっているため関心・意欲・態度や数学的な見方や考え方の向上は望めないのではないかと考えました。そのため、生徒指導の三機能を意識し、ペア学習と机間支援を授業に取り入れることで、生徒の主体性が養われるのではないかと思います。

そして、2年間の実践から「教員から生徒への働きかけ」と「生徒同士の活動」の2つが重要であり、これらの働きかけや活動で生徒指導の三機能を意識することで、生徒の学習に対する主体的な姿勢が向上していくと考えました。



M2教育実践開発コース
八柳 匡
研究テーマ
公民科におけるパフォーマンス評価を取り入れた実践研究

～現代社会『現代に生きる青年』の実践を通して～
パフォーマンス課題と、それに対応するルーブリックを提示した実践について研究したのですが、最終報告においては生徒の活動の様子や最終レポートなどの取り組みについて分析したことを発表していきます。

研究を通じて感じたことは、生徒の学習状況を評価するという本来の意図に加え、単元の学習の見通しが立ちやすいことや学習する意味付けが明確になり、学習意欲の向上につながるのではないかと思います。今後も、地域や生徒の実態に合うようなパフォーマンス評価を取り入れた実践を進めていきたいと思っております。



M2ミドルリーダー養成コース
長谷川 泰 樹
研究テーマ
児童の主体性を育むキャリア教育のアプローチ
～地域の課題を考えさせる単元開発を通して～

私は、キャリア教育アプローチで児童の主体性を育みたいと考え、町の課題を考えさせる単元「町の将来・私たちの未来」を開発しました。教育実践研

究発表会では、課題解決に向けて主体的に取り組む児童の姿と、それを支えた要因について報告させていただきます。

教職大学院での2年間はあっという間でしたが、毎日が充実していて、研究がどんなものか分からずに迷いながらだったものの、2年間の学びは教師としての視野を広げてくれたと思います。研究を進める過程で得た「学びの主体は子どもである」を、これからの実践に生かして、子ども達の成長や教育活動の充実の一助となるように、自分の教員としての資質の向上に努めていきたいと思っております。



M2ミドルリーダー養成コース
外川 知 絵
研究テーマ
定時制高校におけるキャリア発達を促す「総合的な学習の時間」の在り方

～場や集団の工夫と外部資源の活用を通して～

大学院生としての生活も残りわずかとなり、どこか複雑な気持ちです。たくさん学んだ充実感が増すと同時に、以前ののんき過ぎた自分に対する危機感を今更ながら痛感しています。多くの気づきを与えてくださった教職大学院の先生方、院生の仲間たち、そして何より、勤務校で共に学んでくれた生徒と先生方に深く感謝いたします。研究発表会では、「総合的な学習の時間」における、生徒のキャリア発達を促すための様々な仕掛けについて報告します。生徒たちの変化・成長をご覧になり、今後の教育活動に向けたご意見をぜひお聞かせください。



M2ミドルリーダー養成コース
赤垣 由紀子
研究テーマ
教員の資質向上に相乗効果をもたらす若手教員の育成
～校内における主体的な学習会を通して～

教員の資質能力の向上には、学校内の先生方との出会いが有効であることを研究を通して明らかにしたいと考えました。大学院の先生方、共に学んだ仲間、上北管内の多くの先生方と改めて教員の資質・能力について語り合ったことは、私がたくさんの先生から学んだことを振り返り、言葉として表現する機会となりました。勤務校の校長先生をはじめ、上

北管内の多くの先生方にご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。



M2ミドルリーダー養成コース
大里 智子
研究テーマ
総合的な学習の時間におけるキャリア教育
～キャリアプランニングと

困難を乗り越えるスキルに着目して～

1年目は授業に臨むたびに、それまでの教員生活における一つ一つの取組がいかにも不十分であり、もっとやるべきこと、知っておくべき事があったのだと反省ばかりでした。他校種の取組に気付くことができたのは何より大きな財産になったと感じます。2年目は学んだことを活かし、特に総合的な学習の時間の授業づくりに取り組みました。生徒自身に何を身に付けさせたいか目的を明確にして授業を構成し、実施後に評価して次に繋げるという一連の授業づくりに、同僚と協働しつつ取り組めたと思います。十分な授業づくりができたとはまでは言えませんが、今後の業務において大切なことを身に付けられたと思います。



M2ミドルリーダー養成コース
中田 泰人
研究テーマ
同僚性を高める校内研修のあり方についての一考察

「校内研修」の充実に向けて、勤務校の実態に基づいてできることを実践研究してきました。個人としてまだやれたこと、改善が必要なこと等、反省すべき点は多々ありますが、校内研修を通して個人の授業実践だけでなく、教員間のつながり、学び合いという点についても何らかの変容が感じられたのであれば幸いです。自分自身も、本研究を行うに当たり、校長先生始め、多くの先生方の支え、協力の中で進めることができました。協力し合える学校、率先して導いてくださる先生の存在など、勤務校の「強み」を再発見できた気がします。今後、2年間の学びや経験を生かし、より多くの同僚や子どもたちに還元できるように一層気を引き締めて教育活動に当たっていきたいと思います。



M2ミドルリーダー養成コース
坂本 寛実
研究テーマ
段差のない小中連携の在り方
～アセスの分析等を通して～

『アセス』の小学6年と中学1年のデータの変化を分析することで、移行段階でのギャップを明らかにすることができるのではないかとこの研究仮説を立て、小学6年時の適応感上位半

数と下位半数に群分けし、分散分析を行いました。

その結果、上位群は6つの適応感全てで中学1年になると平均値が下がり、逆に下位群は学習以外の5つの適応感で平均値が上がっていました。このことから、下位群には手をかけている一方で、上位群には手をかけていなかったという反省点が浮かび上がりました。

また、小学校側で中学校で成果の上がっている取組を積極的に取り入れたり、小中合同研究会で発表後のアンケートから「乗り入れ授業をしてみてもどうか」などの前向きな意見が多く出されたり、子どもたちの現状を踏まえた円滑な接続に向けて一歩前進できたのではないかと思います。

本研究を進めるにあたり、御協力していただいた小中学校の先生方には心から御礼申し上げます。



M2ミドルリーダー養成コース
工藤 恵代
研究テーマ
不登校に対する教員の対応力向上と負担感軽減を目指した取組について

～校内研修と日常的な談話タイムを通して～

最終報告会では、研究テーマである不登校に対する先生方の対応力の向上と負担感の軽減を目指した取組について、本校で得られたデータの分析結果、考察を発表したいと考えています。少しでもこの研究で、先生方の困り感が解消されたり、不登校児童生徒の減少につながったりしてほしいと思っています。

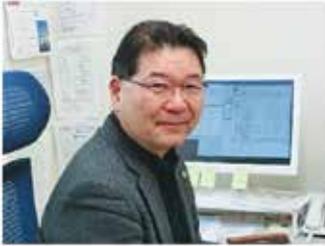
本校の先生方の理解と協力のおかげで、2年間にわたり教職大学院で研修させていただきました。ここでの学びである理論と実践のつながりを通して、今までなかった広い視野や新たな視点で教育をみられるようになりました。本当にありがとうございました。



M2ミドルリーダー養成コース
小泉 朋子
研究テーマ
教員のニーズに基づく研修やサポートの在り方
～若手教員や他校種・他障害種の特別支援学校から異動してきた教員を中心に～

校内の様々な教員の協力を得ながら、「教員のニーズに基づいた研修」「校内における専門的知識・技能等の継承」「学び合い・支え合い」をめざした研修の実施に取り組んできました。自分のもつ専門的知識・技能等を惜しみなく周囲に伝えようとする意欲の高い教員が多数いることは、本校の大きな「強み」であると改めて実感しています。2年間教職大学院で学ばせていただくという大変貴重な機会をいただきましたことに、今改めて感謝しています。今後も、自己の教育実践力向上をめざし、努力を続けていきたいと思っています。

今年度で退職する中妻先生から 「二度目の定年」



珍しいことだが、2度目の定年退職を迎えることになりました。前任校（愛知教育大学）は63歳定年でした。弘前大学では、2度目の定年ということになります。退職説明会も、関係書類も、2度目です。2度目だからではなく、私のように、大学の仕事で中途半端な者には、定年の感慨というものは全くなく、今までの仕事に心が動くということもありません。もちろんやり残したという感傷もありません。ただし、大過なく過ごせて、学生とゼミや授業を楽しくできたと感じていただけることが何よりの喜びです。

4年前の1月、年賀状に書いた「来年定年です」の一言が、巡り巡って弘前大学からのお話となり、2年間を過ごしました。私は、関東圏で多くの時間を過ごしてきたので、山が見える生活はとても新鮮で、喜びでした。アパートの北の窓から見える岩木山、弘前駅城東口からの岩木山、JR陸橋からの岩木山、教育学部4階北側からの岩木山、どれも素敵です。山というのは、安心する風景だと感じます。四季の移ろいが感じられます。温かさも、冷たさも、山の姿を通して感じるができます。暖かさ、寒さではありません。心の移ろいが感じられるのです。その周りに住む人々に思いをはせることが少しできたかなと感じていたら、2年間が経ってしまいました。本当に今までありがとうございました。

修了するM2院生からの一言

◎ミドルリーダー養成コース 赤垣由紀子 先生（野辺地町立野辺地小学校勤務）

私には目指したい恩師がいます。学級も自分も成長していることが分かり、楽しかったことだけが思い出として残っています。教師になってからも何かに挑戦しようとするときには、必ず見守り助言してくださいました。私が現場で悩んでいることにも気付いてくれました。



この悩みは、本教職大学院で過ごす中で、多面的な授業や実習から解決策を見出すことができました。その要因は、全ての科目において行われた演習や省察によるものだと感じています。与えられたテーマや事例研究を通して、校種による学校課題の相違や連携の在り方を考えたり、教育現場における問題にどのように対応するべきかの意見を述べ合ったりするなど、現場では見えていなかったことを俯瞰的にとらえる機会となりました。このことは、教師としてはもちろん、人としてどうあるべきか考える大きな学びとなりました。

共に過ごした仲間たちとよく話しをしました。それは、それぞれの教育観を理解し合える話し合いでした。きっとこれから教職大学院で学ぶ方々も同じ思いを抱くはずです。ここでしか味わうことのできない経験の中で得た目標の実現を目指し、教職大学院第一期生として、それぞれの場所で努力し続けます。ご協力いただいた皆様に心から感謝しております。

◎教育実践開発コース 竹谷 涼さん（来年度栃木県の教諭として内定）

2年間の教職大学院での生活を通し、様々な場面で教育現場に関わる方々と出会い、学び、成長することができました。講義では、物事に取り組む際の広い視野と柔軟な考え方が育ちました。講義は、演習形式で行われるものが多く、課題について参加している学生と話し合う活動をしています。学生の中には、現場で活躍されているミドルリーダーの先生方もいらっしゃるため、生の視点を踏まえたより深い議論が行われました。子どもの姿だけでなく、保護者や地域のことなど、あらゆるものを想定し行動することの大切さに改めて気づかせていただきました。



また、2年間の教育実習や研究活動を通して、教員として必要な実践力が身に付いたと感じています。目の前の子どもたちと直接関わることで、一人一人の良いところや課題、特性などが徐々に見えてくるようになりました。生徒理解をもとに、授業実習や生徒指導等に取り組まさせていただいたことで、生徒の実態を踏まえた教育活動を行うことの大切さを学びました。現場でも学んだことを活かして日々努力していきたいと考えています。このように教員として必要な力を身に付けることができた2年間でした。その過程では、教育活動を行う楽しさや教員としてのやりがいを実感することもできました。これらは全て、これまで出会ってきた方々によるものだと思っています。本当にありがとうございます。これからは、培ってきたものをもとに、一教員として活躍できるようより一層努力していきます。

〈編集・発行〉

弘前大学教職大学院 入試フォローアップ部会

弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）News Letter 第6号 2019.2.7発行

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

Tel 0172-36-2111（代表）

メールアドレス k-daigaku01@hirosaki-u.ac.jp

H P 弘前大学教育学部（教職大学院をクリック）